



NTTネオメイト

全従業員向け6,000台の仮想デスクトップ環境に
VMware Horizon Viewを導入
従来と比べ、性能・安定性の大幅改善と運用コスト削減を実現

課題

- 従来の仮想デスクトップの不安定な環境
- ストレージ過負荷に伴うデスクトップ環境の性能劣化
- 数千台規模に達する大量の仮想デスクトップの管理工数の増大

ソリューション

仮想デスクトップの安定稼働と運用管理負担の軽減を目指し、従来の仮想デスクトップ環境で抱える問題をVMware Horizon ViewおよびVUEMウェアのサポートで解決

導入効果

- ストレージへの負荷を平均で約30%、最大約53%抑止し仮想デスクトップの性能と安定性を改善
- 従来の環境で発生していた慢性的な障害対応工数がゼロに
- 仮想デスクトップ環境の展開にかかる工数を30分の1に効率化

導入環境

- VMware Horizon View
- VMware ThinApp
- VMware vShield Endpoint
- VMware vSphere

西日本エリアの情報通信インフラの保守・運用事業、並びにICTソリューション事業を展開するNTTネオメイト。同社は、情報セキュリティやガバナンス強化を図るべく、仮想デスクトップ環境の導入を進めています。しかし、当初採用した製品は、性能や安定性の面で納得できるものではありませんでした。そこで新たにVMware Horizon Viewの採用を決断。VUEMウェアの厚いサポートを受け、性能と安定性の改善、運用コスト削減など、さまざまなメリットを享受しています。

従来の仮想デスクトップ環境が直面した性能と安定性の問題

NTT西日本グループの一員として、西日本エリアの情報通信インフラの保守・運用業務を担うNTTネオメイト。これまでの実績で培った技術力を活かし、グループ内外に向けた多様なICTサービスの提供も行っています。

その一環として、現在、同社が積極的に推進しているのが、西日本エリアおよび自社向けの仮想デスクトップ環境の導入です。「目的は情報セキュリティとガバナンスの強化。しかし、取り組みを進める中で大きな問題に直面しました」と同社の米田 克哉氏は話します。

具体的には、性能と安定性の問題です。当初、導入した仮想デスクトップ製品は、一部のアプリケーションが正常に動作しなかった上、ユーザーが仮想デスクトップ環境に接続できなかったり、性能が低下したりするなど、ユーザーから多くの不満の声が出ていました。

また、このような問題への対処に工数を割かねばならず、運用管理負担も増大する事態となっていました。「毎朝必ず数台の仮想デスクトップが原因不明の障害を起こしていました。ユーザーの出勤前に障害が起きているマシンを確認し、オペレーターが手作業で再起動しなくてはなりませんでした」と同社の中井 匡斉氏は述べます。

さらにセキュリティ対策の面では、ウイルススキャン、パターンファイルの更新が始まると、同じストレージに収容されている環境の性能が大幅に低下。そのため、スキャンやアップデートの時間が重ならないよう、手作業でスケジュールの調整をしなければなりません

た。多大な手間を伴う上、安全性の面でも不安があったのです。

「さまざまな問題を抱える中、サポートレベルや問題の原因に関して、ベンダーとの合意が難しく、解決への道筋をなかなか見つけることができませんでした」と同社の沖村 嘉正氏は振り返ります。

そこで同社は新たな仮想デスクトップ基盤として「VMware Horizon View」を採用することを決めました。

VUEMウェアの厚いサポートを受け全従業員向けの仮想デスクトップ環境を導入

VMware Horizon Viewの導入対象となったのは、全従業員向けの6,000台分の仮想デスクトップです。これほど大規模な環境を再構築するのは、決して容易なことではありません。それでもあえて移行に踏み切ったのは、VUEMウェアのサポートに対する安心感があったからです。

VUEMウェアは、仮想デスクトップ環境の構築に当たり、プロフェッショナルサービス部隊によるコンサルティングサポートを提供。アプリケーションの配布方法、ストレージのサイジングなど、過去のプロジェクトの経験から導き出したベストプラクティスのもと、最適な設計と構築を支



株式会社NTTネオメイト
ITビジネス本部
仮想化技術センタ長
米田 克哉氏

「VUEMウェアのサポートのもと、仮想デスクトップ基盤を再構築。性能や安定性を飛躍的に向上しています。ユーザーがストレスを感じることなく、快適に業務を遂行できる環境を提供できるようになりました」

株式会社NTTネオメイト
米田 克哉 氏



株式会社NTTネオメイト
ITビジネス本部
仮想化技術センター
主査
沖村 嘉正 氏



株式会社NTTネオメイト
ITビジネス本部
仮想化技術センター
中井 匡育 氏



株式会社NTTネオメイト
ITビジネス本部
仮想化技術センター
前野 秀彰 氏

カスタマープロフィール

NTT西日本グループの情報通信サービス企業。NTT西日本エリアの情報通信インフラの構築から保守・運用業務を担うと共に、長年にわたり培った高い技術力を活かしてプラットフォーム系サービスやアプリケーション系サービス、ネットワーク系サービスなどの多彩なICTソリューションも展開している。

援しました。「仮想デスクトップ環境に精通した経験豊富なスタッフが、システム全体としてどういう形がベストなのかを一緒に考えてくれました。これは非常にありがたかったですね」とNTTネオメイトの前野 秀彰氏は語ります。

また、VMware Horizon Viewが仮想デスクトップ環境での使用に最適化された機能を実装していたことに加え、仮想化基盤として以前から導入していた「VMware vSphere」との親和性の高さも決め手となりました。

「同じVUEMウェア製品なので連動性が高く、運用管理を行う際にも複数のコンソールを使い分ける必要がありません。仮想デスクトップのセットアップ作業などもより容易に行えます」と中井氏は語ります。

ストレージへの負荷は最大約53%削減
展開工数は30分の1に効率化

VMware Horizon Viewへの移行により、同社は従来の課題を全面的に解決しました。

例えば、性能、安定性に影響を与えていたウイルススキャン、パターンファイル更新時のストレージ負荷については、仮想デスクトップのセキュリティ対策をオフロードする「VMware vShield Endpoint」とトレンドマイクロ社の「Trend Micro Deep Security™」を組み合わせることで、エージェントレスでのセキュリティ対策が実現。さらにVMware vSphereのメモリをストレージのキャッシュとして利用する「VMware View Storage Accelerator」も併用することで、ストレージへの負荷を平均約30%、最大約53%削減し、性能と安定性、安全性を両立した上、ストレージコストの最適化にもつながっています。

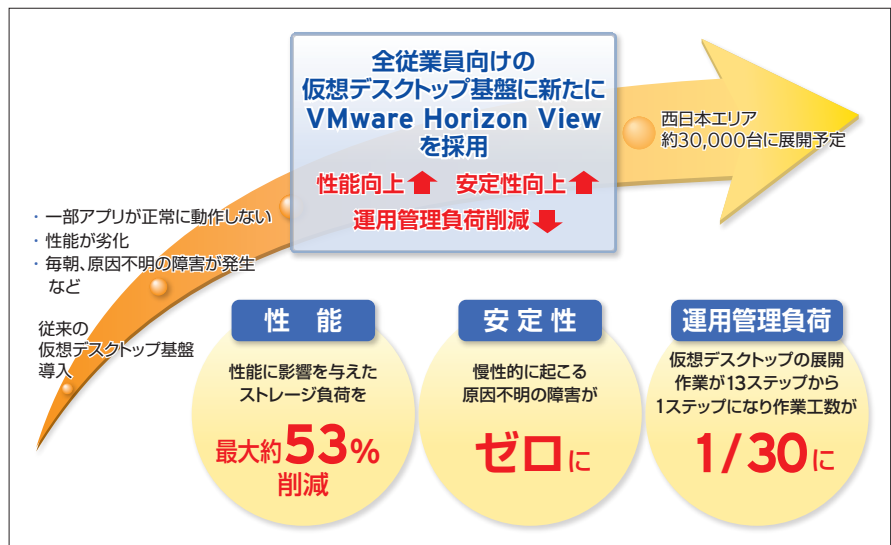
「以前のようにストレージのサイジングやチューニングに苦勞することもなくなりました。ログインやアプリケーションの動作も高速化され、利用者からも『レスポンスが速くなった』と好評です」と前野氏は言います。

さらに仮想デスクトップをリンククローン方式で提供することで、マスタの標準化や展開作業を迅速に行えるようになりました。以前は、13ステップも必要だった作業が1ステップとなり、結果的には、従来の30分の1の工数で完了できるほど効率化されています。

このリンククローン方式は、安定性の向上にもつながっています。「毎晩クリーンなOS環境にリフレッシュするため、OSに起因するトラブルが激減。原因不明の障害もなくなっています」と沖村氏。以前は、毎朝、障害確認と再起動という作業が必要で、それに30分以上費やしていましたが、こうした作業が全く不要となり、これだけで1カ月に換算すると10時間以上の工数を削減できています。

今後、同社はVMware Horizon Viewの西日本エリアへの展開を予定しています。年度内には約30,000台のデスクトップ環境を提供する予定です。

「いつでも・どこでも活用できるのが仮想デスクトップの魅力。グループ内のワークスタイル革新にも活用していきたいですね。また、弊社が提供する『AQStage（アクステージ）』のラインアップとしても仮想デスクトップサービスを加える計画です。これほど大規模な仮想デスクトップ構築事例は国内でもあまりありません。この経験を活かして多くのお客様の課題解決に貢献したいと考えています」と米田氏は最後に抱負を語りました。



図：NTTネオメイトによる仮想デスクトップ導入の経緯、および効果

